

令和7年度

教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	21	学校名	大垣北高等学校
------	----	-----	---------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	国内外の様々な分野で活躍する人材を数多く輩出してきた西濃地域の伝統ある高校として生活信条「誠実・友愛・努力」のもと、生徒の視野や可能性を広げる全教育活動を通して豊かな人間性と高い知性で新たな時代を拓く挑戦者の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	人間尊重を基調とし、智・徳・体の調和のとれたたくましく豊かな人間性を育み、高い志とグローバルな視野をもって人類・社会に貢献できる有能な人材を育成する。そのため、“誠実・友愛・努力”を本校の生活信条とし、その具現に努める。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	・誠実に未知に挑み、新たな世界を拓こうとする人 ・友愛のこころをもち、多様な人々と協働して社会に貢献する人 ・努力を重ね、学び続ける人	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	・生徒が失敗を恐れず挑戦を重ねることで、より良い道を選択・創造する各種活動への惜しみない支援 ・基本的な知識を確実に習得し、論理的な思考力・洞察力・探究力を身につけることのできる授業の実施 ・生徒の視野を広げ、豊かな人間性を身につける行事・生徒会活動・課題活動等の実施	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	・誠実に様々なことを探究する姿勢がある生徒 ・友愛のこころをもつ生徒 ・幅広い教養を身につける努力をする生徒	
学校の抱える課題	・生徒の主体的な学習態度の育成と教科横断的・探究的な深い学びへの導き（学習指導） ・卒業後の生き方と社会的役割を意識したキャリア教育の充実・主体的進路意識の向上（進路指導） ・自らの価値や存在意義を肯定できる感情の醸成と自他を互いに尊重し助け合う態度の涵養（生徒指導） ・図書貸し出し冊数の減少傾向に見られる本離れ、図書館離れの改善及び情報発信の強化（その他）		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	・生徒が自ら課題を発見し克服するために、意欲を生み出す授業を展開し、確かな学力の伸長を図る。 ・DXハイスクール事業により整備された学習環境・設備を活用し、より多くの生徒が自由に学習できる機会を提供し、対話的・協働的な学びの充実を図る。 ・総合的な探究の時間（SD探究）を中心に、データサイエンス的なアプローチを身に付け、深い学びを導く探究活動を展開する。	
	進路指導	・生徒の視野を広げ、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力を高められるよう、個々の取組を適切かつ計画的に支援する。 ・様々な分野で活躍する卒業生と在校生をつなぎつつ、説明会や進路面談を充実させることで、学習と将来の進路目標をつなぐキャリア教育を行う。	
	生徒指導	・全ての生徒・保護者にとって安心・安全で居心地の良い学校づくりを目指すとともに、いじめや生徒指導上の問題の未然防止・早期発見・早期対応に努める。 ・不登校傾向の生徒や困り感を持った生徒に対し、スクールカウンセラーや外部機関と連携し本人及び保護者に寄り添った継続的な支援を行う。	
	その他	・教科学習や探究学習を主体的に課題解決できる空間を提供し、読書の感動を共有できる生徒を育てる。 ・知的好奇心・興味関心を喚起し、未知の世界を広げる情報を提供する。	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的な取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	・教科横断型研修グループメンバーによる授業改善を図る。	施策Ⅱ-8	・研究授業の実施(100%) ・学校評価アンケート				
	・大学教授・企業関係者による専門性の高いレクチャーへの積極的な参加を促し、成果物につなげる。	施策Ⅱ-11	・学会、研究会への参加(全体の20%)				
	・DXハイスクール事業により整備された機器を活用し、研究発表を加速する。	施策Ⅱ-9	・学校外の研究発表件数、参加者数(10%増)				
進路指導	・大北先輩講座等、卒業生を中心とする外部講師からの講話を通じキャリア教育の充実を図る。	施策Ⅱ-11	・学校評価アンケート ・オオキタサポーター年間利用者数(昨年度15名→40名) ・進路支援部主催各種ガイダンス・説明会への参加者数(一種につき50名以上)				
	・新課程入試に対応した指導（生徒・保護者を対象とした進学説明会・個別懇談等）を充実させる。	施策Ⅱ-13					
生徒指導	・いじめに向かわない態度・能力の育成やいじめが起きにくい・いじめを許さない学校づくりのための包括的な体制を整備する。	施策Ⅰ-7	・学校いじめ防止基本方針の見直し				
	・不登校傾向の生徒や困り感をもった生徒に対し、ケース会議の開催など早期段階から組織的に対応し、支援方針の決定を行う。	施策Ⅰ-3	・学校評価アンケート ・認知したいじめの、解消した割合(100%) ・SC等活用事業報告書				
	・スクールカウンセラー、スクール相談員、スクールソーシャルワーカーや外部機関と連携し、本人及び保護者に寄り添って継続的に支援する。		・心のアンケート				
その他	・交通安全や情報モラルなど予防的生徒指導の充実を図る。	施策Ⅲ-19	・Teamsや教室掲示での発信の増加				
	・Webサイトや「すぐー」を活用した保護者や中学生への情報発信を増やす。	施策Ⅳ-20	・更新数、アクセス数、「すぐー」による発信件数(10%増)				
	・図書情報館の利活用を促進し、図書貸し出し冊数を増やす。	施策Ⅱ-8	・機器センサーによる利用者の概要の把握 ・図書貸し出し数(20%増)				
	・図書情報館の広報を図書委員会中心に生徒と共に行い、進路支援・学習ができる居場所とする。	施策Ⅱ-13	・学校評価アンケート(肯定評価が生徒・保護者ともに80%以上)				

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年 月 日

学校関係者評価

実施日：令和8年 月 日